

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 平成 27 年 11 月 6 日 |               |
| 所属部局・職           | 霊長類研究所 修士課程学生 |
| 氏名               | 佐藤 容          |

|   |
|---|
| <b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)   |
| 愛知県犬山市  |
| <b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)   |
| ゲノム実習   |
| <b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)   |
| 平成 27 年 10 月 26 日 ~ 平成 27 年 10 月 30 日 (5 日間)  |
| <b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)   |
| 早川先生、岸田先生、木下先生  |
| <b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)  |
| 写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。<br>別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。  |
| 今回の実習では、前週の屋久島フィールド実習で収集したサンプルを用いて DNA 解析と性ステロイドホルモンの測定を行った。  |
| ・ DNA 解析 (10/27, 28)<br>XY 遺伝子および SRY の解析を行い、糞サンプルの DNA 解析による雌雄判別がどの程度可能であることを明らかにすることを目的とし、DNA サンプルをナンドロップおよび PCR にかけて、実際に観察した際の雌雄判別の結果と比較し解析を行った。<br>この実験では、以下のような結果が得られた。<br>1. 全体の 67.31% で実際の観察結果と DNA 解析の結果が一致した。しかし 29.63% において結果が得られなかった。<br>2. 結果が得られたもののうち、実際の観察と DNA 解析の結果が不一致だったのは 1 頭のみであった。<br>3. よって、DNA 解析はヤクシカの性別判断の手段として効果的であるといえる。<br>今後の課題としては、サンプル採集の技術向上の必要性などが挙げられた。 |
| ・ ホルモン測定 (10/26, 29, 30)<br>8 月に収集しておいたサンプルと今回のサンプルの結果を比較し、非繁殖期と繁殖期における性ステロイドホルモンの濃度の差を明らかにすることを目的として測定を行った。測定したホルモンはテストステロン、エストラジオールおよびプロジェステロンである。26 日にサンプルの凍結乾燥、29、30 日に測定を行った。<br>この実験では、以下のような結果が得られた。<br>1. 雌雄間における各ホルモンの明確な濃度差はみられなかった。<br>2. エストラジオールにおいてのみ、季節による濃度差がみられたが、8 月のほうが 10 月よりも高い値を示した。<br>今後の課題としては、より寒い季節のサンプルの結果を示す必要性などが挙げられた。                                       |
| また、11 月 5 日にプレゼンテーションを行った。  |
|   |
| 写真. ホルモン測定に用いたプレートウォッシャーとリーダー   |
| <b>6. その他</b> (特記事項など)  |
| 今回の実習では、普段の研究活動では得がたい貴重な経験をさせていただきました。このような機会を設けてくださった皆さま、そして指導していただいた先生方に心より感謝申し上げます。  |